

第8回 国連安保理がガザ和平案を採択

2023年10月以降、イスラエルと、パレスチナ自治区のガザ地区を支配する武装勢力のハマスとの戦いは長期化し、多くの犠牲者を出しました。こうしたなか、2025年以降、アメリカのトランプ大統領らが仲介して、イスラエルとハマスの和平交渉がすすめられてきました。

11月17日、国際連合の安全保障理事会は、トランプ大統領が主導したガザ地区の和平計画を支持する内容の決議案を賛成多数で採択しました。

常任理事国5か国のうち、アメリカ・イギリス・フランスの3か国と、すべての非常任理事国10か国をふくむ13か国が賛成しました。常任理事国であるロシアと中国は拒否権を行使せず、棄権しました。

国連のグテーレス事務総長の報道官は、今回の採択は「停戦の定着に向けた重要な一歩」だと述べました。今回の決議案には、複数の国連加盟国による「国際安定化部隊」が、ガザ地区の停戦や治安の維持をになうことがふくまれています。

しかし、ハマスが武装解除しない方針を改めて表明したほか、イスラエルはパレスチナの国家樹立に強く反対しているなど、今後の先行きは依然として不透明なものとなっています。

チャレンジ問題

- 1 ガザ地区の和平計画を主導した人物はどの国の指導者ですか。
- 2 ガザ地区の和平計画を支持せずに棄権した常任理事国を次から 2 つ選んで、記号で答えなさい。

ア アメリカ	イ イギリス	ウ フランス
エ ロシア	オ 中国	

答え

- 1 アメリカ
- 2 エ・オ